

天遊 Ten You

大阪教育大学広報誌

OSAKA KYOIKU UNIVERSITY
PUBLIC INFORMATION MAGAZINE

2017 特別号



イクメンのススメ

小林奈央の体育会 突撃インタビュー!

今日何食べる? 大教生の食生活

TOPICS

附属学校園ウォッチ

特集

1

学長対談「日本の未来をつくる」

特集

2

大教大ファミリークロストーク

大教大
NAVI



アプリを利用すれば、今号の「天遊」に関連した動画が視聴できます。

「大教大NAVI」アプリをダウンロードして、左記のアイコンと同じボタンをアプリ内でタップするとカメラ画面に切り替わります。次に左記のアイコンをカメラに読み込めると、動画が視聴できます。

詳しいアプリの使い方はホームページをご参照ください。



国立大学法人
大阪教育大学

日本の未来をつくる

～ 大阪を教育のトップランナーに ～



複雑化する社会に対応するために、今、教育に何ができるのか？
大阪の教育界のトップである、大阪府・大阪市・堺市の教育長が集い、
栗林学長とともに教育の現状と展望について、語り合いました。

大阪教育大学長

くればやし すみお

栗林 澄夫

富山大学文学部卒、
大阪大学大学院文学研究科
修士課程修了、文学博士。
国立大学法人大阪教育大学理事・
副学長を経て現職。
昭和23年生まれ、67歳。

堺市教育長

いしい まさひこ

石井 雅彦

金沢大学教育学部卒。
堺市立福泉中央小学校教頭、
堺市教育委員会事務局
学校教育部学校指導課長、
同局教育次長、同局教員採用・
育成マネージャーを経て現職。
昭和28年生まれ、63歳。

大阪市教育長

やまもと しんじ

山本 晋次

愛媛大学法文学部卒。
大阪市市民局市民部長、
情報公開室協働まちづくり室長、
市政改革室理事を経て現職。
昭和32年生まれ、59歳。

大阪府教育長

むかい まさひろ

向井 正博

中央大学法学部卒。
大阪府教育委員会事務局教育次長、
大阪府東京事務所長、
大阪府商工労働部労働政策監等
大阪府教育委員会及び
大阪府庁の要職を経て現職。
昭和29年生まれ、62歳。

2017年の抱負と課題

栗林 大阪教育大学では、2017年度から新しい組織をスタートさせます。特に、幼小・小中・高の学校間接続の問題、教育の実践性の問題、チーム学校に対応できる人材の育成などに重点を置いて組織改革を行いました。これからその改革の身が問われることとなりますが、教育長である皆さんの、ひいては教育委員会と学校現場のニーズに沿うものであることが重要です。そこです。皆さんの今年の抱負、あるいは重視する課題をお聞かせいただけますでしょうか。

向井 当然のことではありますが、第1には優秀な教員を1人でも多く確保することが必要です。次に、学校現場の課題に関しては、校内暴力の減少に向けた取り組みをさらに推し進めたい。そして学力です。全国学力・学習状況調査において、中学校は全国との差がかなり縮まってきていますが、小学校は横ばいの状況が続いています。次回はもっと結果を向上させられるよう、力をいれていきます。

山本 大阪市の場合は、現市長が「貧困の問題を政策の中心に置いています。中でも、所得の少ない家庭の子どもが大人になっても低所得状態にあるという、いわゆる貧困の連鎖を断ち切るのに必要なのは何よりも「教育」であり、まずは基礎学力を向上させることが重要です。大阪市には、学力面で大きな課題を抱える学校があります。これまでの教育委員会の施策を、各校の実情にあわせてもっとメリハリの利いたものに変えなければなりません。また、家でほとんど勉強をしない子どもの割合が非常に高いので、家庭での学習習慣を身に付けさせる取り組みも同時に進める必要があります。

石井 堺市は、単独採用を開始して以来、毎年200人以上の教員を採用しており、教員の年齢構成が大幅に若返りました。皆、非常に意欲に溢れていますが、経験不足、指導力不足の点があることは否めませんので、学習指導を中心に若い

教員の資質向上に力をいれていきます。また、堺市でも子どもの学力向上に繋げるため、授業改革、家庭学習習慣の確立、学力低位層への手厚い対応を行いたいと考えています。授業改革については、学習指導要領の改訂で議論されている「主体的・対話的で深い学び」を、日々の授業に取り入れていくということです。また、山本教育長もおっしゃったように、家庭学習習慣も重要です。義務教育期間のうちに、家での様々な誘惑の中で勉強する習慣をつけることが、その後の高校中退という課題にも応えることになるのではないのでしょうか。学力低位層への対応については、貧困の問題とも関連が深いので、手厚く対応していきたいと考えています。

次期学習指導要領にむけて

栗林 石井教育長のお話にも出ましたが、2020年に学習指導要領が改訂されます。皆さんはどのように受け止めていますか。

石井 今回の改訂では、幼小中高のそれぞれの段階ごとに課題が明記され、審議されています。その中で、堺市では特に小学校での英語教育、中学校では部活動への対応が課題だと思っています。小学校英語については、3・4年生で年間35時間、5・6年生で同70時間という学習時間をどう確保するのか。加えて今の小学校教員は、英語の指導方法を学んできていないため、子どもに教える以前に教員自身が学ばなければならぬという課題もあります。中学校の部活動については、教員の長時間労働という視点だけでなく、スポーツ医学の観点からも検証する必要があると思います。また生徒のほうも、土日でもずっと部活をやることに負担を感じてきている現状があります。

栗林 小学校英語もそうですが、今回の改訂では、知識を受け入れるだけではなく、それを運用していく力を育成するという点が特徴です。子どもたちが主体的に学ぶ、アクティブラーニングと言われる学習が必要とされています。

山本 学校現場からは、英語教育を充実するのはいいが、ならば今のカリキュラムでどのように時

間を確保していくのか、という率直な声も出ています。今、大阪市内の中学校では、授業のはじめの10分程度を使って行う基礎学習の徹底や、英語のネイティブの方とのチームティーチングなどにより、英検3級の到達率が目に見えてあがりました。ポリシーム感が薄くても、継続していくことが大事なのではないでしょうか。

社会の多様化に応えるために

栗林 特に東京・大阪のような大都市圏で顕著ですが、社会の多様化を反映し、教育現場にも様々な課題が出てきています。学校には、これまでとは違うサポートや対応が求められています。

向井 2016年度から、特に校内暴力の多い小学校50校を指定して予算をつけ、スクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSW)、地域人材などを配置し、チーム学校としての対応をスタートさせました。しかし、そうした人材を雇うのは、国からの予算が少しはあるものの、大半は都道府県からの支出となり、すべての学校に広げるのは困難です。SCやSSWを教員と同じように定数化すれば、チーム学校という仕組みはもっと早く確立していくのではないのでしょうか。また、中学・高校の学級定員は40人ですが、これを学校によってある程度弾力的に運営できるようにしていくことも必要ではないかと思っています。

山本 大阪市では、2019年4月の開校を目指して、国際的な教育プログラムである国際バカロレアを取り入れた教育実践を行う中高一貫校の設置を進めています。国際社会でリーダーシップをとって活躍する人材を輩出することが大きな

目的ですが、別の狙いは、この学校を卒業した人に教育の世界に入ってもらい、先生を教える先生になってもらうことです。大阪市内では、外国の児童・生徒が増えており、彼らが授業についていけず孤立する可能性が常にあります。そういう子どもたちに授業の端緒を、簡単にでもいいので英語などでケアしてあげられれば、ギャップはかなり減らせるのではないのでしょうか。グローバル化への具体的な対応という意味で、教える内容だけでなく、それを伝える先生をどう育てるかということも大きな課題だと認識しています。

大学人材を活用したサポート

栗林 少子化とニーズの多様化が同時に進行している状況の中で、国ももちろん対応を考えるとありますが、それを待つていられないのが現状です。これをカバーしていくために、大学の人材を用いた教育力のサポートという点で、どのような可能性が考えられるでしょうか。

山本 小・中学校での子どものための支援に、大学生に参画していただきたいと考えています。基礎学力をつけさせるだけでなく、生活態度の改善、社会性の形成など、子どもを総合的に支え、育てていくためには、在学中から学校現場と関わって実務を経験し、力を蓄えた上で教員になっていただくことが必要だと思います。学生が、自身の課題は何か、それにどう取り組んでいくのか、しっかりと向き合ったうえで教員になることで、厳しい教育の世界の一員として立つことができるのではないのでしょうか。各自自治体や教育委員会はそのために何ができるのかを考えなければなりません。大阪市としても大学連携の窓口を設置し、大教大をはじめ各大学との連携を機能的に進めていけるようにする必要があると感じています。



栗林 学校や教育委員会で、教員を志望する学生に向けたインターンシップが盛んに行われています。堺市ではどのような活動がありますか。

石井 学校現場と関わる取り組みとしては、堺市で教員になることを志望する大学生や社会人を対象に講義や実習を行う「堺・教師ゆめ塾」や、放課後学習指導や授業の補助などをする「堺・スクールサポーター」制度などがあります。学生時代からこうした活動に参加し、意欲をもって学んでいる方は、採用されると即戦力として力を発揮してくれる傾向にあります。学校生活中心という学生よりも、意欲の面でも実態を知るといってもプラスになっていると思います。教員養成については、教育大学での4年間の学びと、それ以降の学校現場、教育委員会、教育センターなどの学びを区切るのではなく、互いに壁をなくして、もっと協力を進められなくと思うのです。例えば、理科の研究校に、大学の先生と学生が一緒に来て、大学の先生が学校を指導し、学生は研究に協力しながら学んでいく、というようなことができないかと考えています。他にも、大教大の

先生に、大学で育成した人材がその後どう育っているのか見てもらい、その上でどのような研修をしたら良いのか、教育センターの育成カリキュラムに参画してもらうというのも良いのではないのでしょうか。これは堺市だけでなく、大阪府や大阪市ともぜひ一緒に取り組んでいきたい。

生涯を通じた教員の学び

栗林 石井教育長から教員になった後の学びについてお話がでしたが、教員の生涯を通じた学びが必要だと言われています。先生方が意欲を持って取り組めるような、学習や研修の在り方についてどう考えているのでしょうか。

向井 教員は授業期間中、特に平日は学校を離れないため、研修参加が難しいのが実情です。そうすると結局、土日や夏季休暇などにやらざるを得ず、休みがなくなり負担になってしまします。普段の業務の中で研修ができるような仕組みを考えていく必要があると思います。

山本 現在大阪府がまとめている教育振興基本計

なことで困っている、こんなことを支援してほしい、という要望を伝えたら、それなら大教大ではこんな支援ができるよと、関係する先生や部局に繋いでくれる。逆に、大学生がこんな勉強をしたいと相談したら、この理科の研究校に行つて勉強してみれば、と教えてくれる。そうやって、お互いの経験や長所を活かせたら良いのではないのでしょうか。

栗林 ありがとうございます。

最後に私からも一言述べさせていただきます。私には、大阪を教育の世界でトップランナーにしたいという希望があります。大阪はその資格もあるし、力もあるはずだと信じています。社会構造の二極化や多様化といった難しい面はありますが、そこを皆さんとの協力で乗り切ることができれば、これからの日本の在り方を決めるような新しい教育モデルを作っていける可能性があると思います。大阪教育大学は、組織改革を行いまして、教員養成の高度化に向けても取り組みを進めています。是非、これからも連携を密にして、お互い協力しあえたらと思います。



画の基本的な目標の中に、「未来に向けて生き抜く子どもであってほしい」という内容があります。そんな子どもを育てる新しい教師像を描き、育成していくための指針を、2017年度中に整備する予定です。それを踏まえて研修体系の在り方や人事給与任用制度などを総合的に議論し、2018年度から新しい制度をスタートさせたいと考えています。

大阪教育大学への期待

栗林 大都市で本学のような教員養成大学と教育委員会が本手に手を携えて仕事をしている所を、私は他に知りません。今後も皆さんとの連携を深め、学校教育に新しい風を吹き込み、大阪モデルとして新しい教育基盤を作っていきたいと考えています。そのために、大阪教育大学にこうあって欲しいという期待や提言などがありますでしょうか。

向井 抽象的な言い方になりますが、コミュニケーション能力があつて、決断ができ、情熱があり、ポジティブな人を育ててほしい。教員採用試験で、そうした部分ができる限りしっかりと見てはいますが、2年、3年と経って、この人材として大丈夫か、と思ってしまうような人もいます。大教大出身なら大丈夫だと安心できる、そんな人材育成をしていただければと思います。



山本 大教大同様、大阪府も様々な先駆的取り組みを進めていきたいと考えています。ただ、やる気や技能という点では問題ないのですが、どうやって進めていくのかという道筋を考えるシンク

日本の未来をつくる ～大阪を教育のトップランナーに～



大教大ファミリー クロストーク

家族3世代に渡って大教大という
民辻ファミリーに、大教大への思いや
期待を語り合ってもらいました。

家族 座談会

大教生の今と昔

父：変わったと思うところは、教師になるんだという強い思いを持って入学している学生が多いこと。僕の頃は、必ずしもみんな教師になろうと思って入学してきていなかった。当時から変わらないのは、真面目なところかな。

大叔父：附属平野小学校で教員をしていた時に、大教大から多くの実習生を受け入れていたけど、大教生は良く言う「真面目」でも悪く言う「羽目を外す」ということがなく、面白くない。小さくまとまっていて、その枠からはみ出る子どもがいた時に、その子の身になって導いていけるかなと思っこともあった。

父：僕とか大叔父さんの頃は、入試制度が一期校・二期校と分かれていて、大教大は二期校だったから、本当は大教大とか一期校の大学に行きたかったけど、落ちてやむなく大教大に来たという学生も多かった。それと思うと、僕らの時代の大教生

は、失敗経験の上で大教大に入学している。そういう意味で、最初から教師になりたいって順調に進学してきている今の大教生は、失敗の経験が少ないのかも知れないね。

娘：確かにそうかも。今の大教生は、勉強やスポーツをずっと真面目にやってきた人が多いと思う。私も3回生で教育実習に行った時に、担当の先生から「最近の子は般にこもりがちで、こんなことをやってみよう」という気持ちが少ないと言われたことがあった。

父：純粋で熱心で真面目でいい子だけど、ワイルドさに欠けるところはあるね。教育現場には日々たくさん問題が発生するから、いろんなことに対応できる力が必要だけど、そこが弱いかな。

娘：他には？

父：水泳部のOB会に行くと、挨拶がきっちりで



娘：民辻 万佑子
学校教育教員養成課程
家政教育専攻4回生
奈良県中学校教員として
採用内定。

きて、スピーチも上手い。考えも目標もしっかり持っていると感じる。そういう所は、僕たちの頃よりもしっかりしていて頼もしいと思うね。

大学で学んで 役立ったこと

父：心理学とか教材研究とか、現場ですぐに役立った授業というのももちろんある。でも意外に役立ったと思うのは、3、4回生の時にやっていたすごく専門的な研究。小学校の理科で扱わないような実験ばかりだった。なんでこんなことをやるのかと不思議に思ってた先生に聞いてみたら、「今やっていることが、小学校ですぐに役立つんじゃないの？」と聞かれています。でも、何か課題を自分で決めて、その答えを生懸命見つけに行くという経験を積み重ねることは絶対に役に立つ。だからあえてやっているんだと言われた。その時は半信半疑だったけど。

娘：今では少し思っている。

父：教員になっても日々何かしら研究をする必

要があった。その先生が言ったことは正しかったなと。教員は、学校内外で組織されている研究会にたくさん参加する必要がある。普段から、明日の授業はこういうことをやろうとか、来週はこれをやろうとか、自分なりにテーマを決めて、研究して、それを子どもにわかりやすく伝えなければならぬ。教科書をそのまま教えてもなにも面白くないから、自分なりにひと工夫することが大切。

娘：子どもから突然質問されても答えられないといけない。

父：そうだね。毎日の授業の中でいろんな問題が起きてくるから、それを次の授業までに解決しておかなければならない。日々の細かな問題、自分で決めた新たなテーマ、学校全体の課題、そういうものには、結局自分の中で一生懸命取り組むしかない。コツコツと研究して、解決していく。そういう基本的な構えやスタンス、そのための方策は、大学の研究室で学ばせてもらったと思う。

大叔父：ゼミで数学の原書なんかを訳していると、証明問題で「明らかである」と書いてあ



大教大
NAVI

座談会の動画が
見られます。

教員を目指す人への アドバイス

大叔父：学生時代に失敗しておく、失敗した子どものことがわかるし、その子に打つ手立てもわかる。親との対峙の仕方もある。大教大でいうと、失敗を重ねることは、人間として大きくなっていくこと。犯罪のような失敗は駄目だけど、自分の生活の中で解決していけるような失敗をどんどんやっていくことが、自分の血肉になっていく。小さくまとまらないでほしい。

父：特に教員になる方には、新人の頃は失敗しても周りは暖かい目で見てくれるから、最初の学校では自分なりの思いをもって、一生懸命仕事に取り組んで、時には突飛なことやってみてと言いたい。こざんまりと、小さい成功を狙った安全策を取っていると、教師として伸びない。失敗を恐れずにチャレンジすると、その時は大きな失敗をしたとしても、後でどんどん成長する人が多い。

たりする。でも、ゼミ生で話しあってみても全然明らかじゃない。大人や学者から見れば明らかにと、学習者からすると、なぜそうなのか説明が必要なのがある。それがわかって初めてきちんと理解できる。大学では、どうして「明らかなか」を説明するべく、いろんな角度から物事を見て、手がかりをたくさん見つけて、それにどうアプローチしていくか、というような研究の方法を教わった。教員になってみると、それはとても大事だったね。

娘：具体的な例はある？

大叔父：例えば、小学校でまず10までの数を教えて、その次は20まで、100までとなっていく。じゃあなんで最初から100まで教えないのか、子どもの発達とどう関係しているのかというように、多方面から見て考えて、説明できなければいけない。そうして初めて教えるということが成り立っている。直接的な教科内容で役立ったこともあるけど、それよりも物の考え方、アプローチの仕方なんかが、すごく身になってると思う。



父：民辻 善昭

1981年 小学校教員養成課程理科専攻卒業
大阪市立滝川小学校校長 兼 滝川幼稚園長。
2015、2016年度 大阪教育大学
教育振興会会長を務める。

イクメンのススメ

男性が育児休業(育休)を取得しやすい環境づくりが叫ばれ、子育てにもっと関わりたいという男性が増えています。厚生労働省の調査によると、約3割の男性が育休取得を希望しているという結果が。そこで、本学のイクメン2人に仕事と育児の両立について本音を聞いてみました。



育休は“当たり前”

教養学科人間科学講座
高鞆 裕樹 准教授

育休を取得することは、当たり前だと思っていました。男性も育児をすべきだとか気負っているわけではありません。妻も「取るよね」という感じでした。

掃除、洗濯、皿洗いは子どもの頃から親にさせられていましたし、ひとり暮らしを経験して料理もするようになりました。共働きなので、結婚当初から家事は分担していました。それでも育児は大変でした。洗濯を終わらせたら、次はご飯というように、目の前のことを片付けていると一日があっという間に過ぎていく。行政手続きも数多くありました。

育休を経験したことで、仕事を「諦める」ことができるようになりました。コインポリッシャーという話があります。100円玉をピカピカに磨いても、それは結局100円の価値しかないということです。私も以前は、授業も研究もより良く完璧にと思っていたのですが、そういう視点で振り返ると自己満足でしかなかった部分もあると気づきました。良い意味で完璧を目指さなくなりました。

妻の育児を「手伝う」とは考えていません。自分も親なのだから、一人で育てられなければならないと思っています。一人で育てられる親が二人いるから、お互い楽になるのだと思います。あとは“タイミング”と“勢い”。やはり教員は、授業期間中に育休に入るのは難しい。私の場合は、2月に生まれてくれたので、授業のない2月後半～3月を育休にすることができました。そして、いざ育休を言い出してみると、周囲は結構暖かかったです。同僚は「子どもで手がかかるなら、仕事は何でもかわってあげるよ」と言ってくれて、とても嬉しかった。周りのちょっとした声かけがあれば、男女とも取りやすくなるのではと思います。



【妻からのコメント】

もともとできる方ができることをしていましたが、産後すぐのしんどいときに「授乳はできないから」といろいろしてもらえてありがたかったです。夜中の寝かしつけはほとんどお任せでした…。これからも2人で協力していきたいと思います。夫が育休を取得できたのは、講座の先生方のおかげです。ありがとうございました。



育休で家庭円満

学務部教務課
岩本 洋平 さん

半年間の育休を取得したのは、第二子である長男が生まれた時です。長女の時に苦労したので、二人目が生まれる時は絶対に取りたいと考えていました。

男性事務職員の育休取得第一号になったのは、人事課に所属していたことが大きいと思います。特にその頃は、厚生労働大臣による「子育てサポート企業」認定の証である「くるみんマーク」取得に取り組んでいた時期で、その中に男性職員の育休取得推進があることを知っていました。自分の育休が大学のメリットにもなることは、大きな後押しになりました。

育休によって、意識が大きく変わりました。一人目の時は「自分は働いているから、できる限りで手伝えばいい」という甘えがありました。取ってみるとオムツを変えたり、食事を作ったり、掃除したりと、家にはこんなにたくさんの仕事があるのだと初めて知りました。

復帰した後は、妻一人に負担をかけないように、なるべく早く帰るようになりました。育休を取らなくても、きちんと分担できる方もいるとは思いますが、私の場合は育休を取らないと気づくことが出来なかった。もっとできることがあったなと反省しています。

育休を取って正解でした。子どもと接し、育児に携わることで、妻との間で日々のちょっとした子どもの成長などの会話が増えました。家庭円満にもつながっています。

男性の育休取得を増やすには、職場全体の雰囲気づくりが大事です。私の場合は、大学の目標に貢献できるから言い出しやすかった。そういうバックアップがなくとも取りたいと言える環境がないと、男性の育休は増えないと思います。



【妻からのコメント】

夫が育休を取得してくれて、気持ちの面でも非常に心強かったです。2人で育児をし、子供の成長を共に見守る事ができ、良い経験となりました。男性が育休を取得することで、子育てへの意識が「手伝う」から「共に行う」へ変わると思います。育休の取得も含めて、子育てのしかたを家の中で話し合ってみてはいかがでしょうか。

大教生へのメッセージ

父：学生時代に、人間関係を築く力をいかに磨くかはとても重要。教員であれば、子どもや保護者、地域の人に対しても、あるいは教職員の中でも、人間同士どう上手くやっていくのかがものすごく大事になってきている。その点、大教大は環境的に恵まれている教育大学だと思う。施設もいいし、教育大学の中では学生数も多い。それだけいろんな個性をもった友達と出会うことができる。サークルや部活も盛んで、友達同士で刺激しあえるいい環境がある。そういう所はこれからも大事にしてほしいな。

大叔父：失敗を恐れないこと。社会に出ると、周りから見られてると思うて失敗をなるべく避けようとするけど、学生のうちは失敗しておいた方がいい。まだ20歳前後、人生80年時代のまだ4分の1も生きていないのだから、立派な人間なわけがない。怖がらずにいっぱい失敗しておくべきだと思います。

う。自分が失敗したとわかるということは、成長の証。その原因がどこにあるかがわかれば、次はこうしよう、ここを変えようという案がでてくる。そうやって失敗したことを振り返るのが大事。

父：何事も精一杯やってほしい。精一杯やった上での失敗は、絶対に意義のあるものです。そして、失敗した時には思いっきり悩むこと。悩んで、次どうしようかともがいてほしい。もがいて、自分なりの解決策を考えて、またやっていけばいい。

娘：学生生活では、いろんな場所に行って、たくさんの人と関わるのが大事だと実感した。部活、バイト、留学、旅行、なんでもいい。時間がなくても、お金がなくても、今しかできないこと、やりたいと思ったことは全部やった方がいい。受験生に、私は大教大をすごくお勧めします。教師になりたい人も、悩んでいる人も、大教大では周囲の人を見て、自分を見つめ直せる。この大学ではいろんな方面で頑張っている人がいて、刺激をもらえるので、是非大教大をめざしてほしいな。

大学への期待・要望

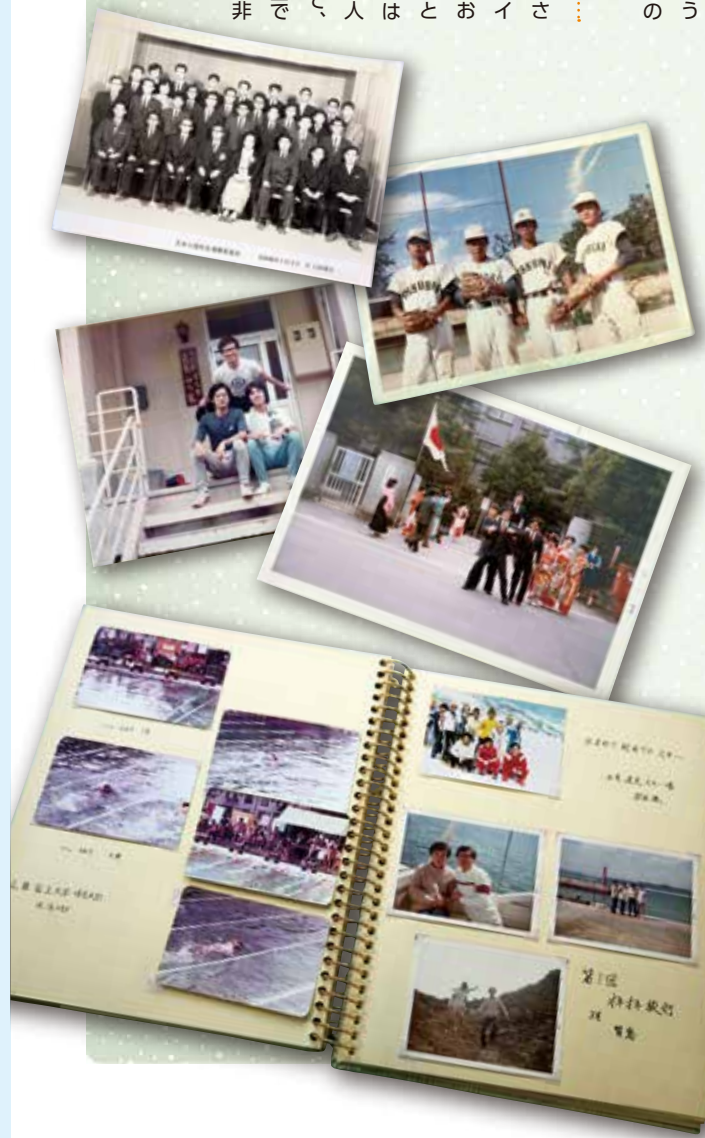
娘：大教大にうつしてほしいという要望はある？

大叔父：教員になる、ならないは別にして、学生にいろんな経験をさせてほしい。特にこれから少子高齢化社会の中で、子どもとどう接するかはもちろん、お年寄りとどう接していくのかも大事な観点だと思う。いろんな所に実際に行って、体験して、その中から学生がどう学ぶかということをも、うちよつとやってほしい。教室の中だけの学問で終わらずに、それを使って、実際の社会にどう働きかけていくかということも学ばせてほしい。学習したことをどう生かすか、学問と現実社会の相互関係をうまく作れたら、企業に行っても、教師になっても現場で活かせる力になっていくと思う。

父：立地が都心から離れているというのもあてがちよと現場力が低いなと感じる。もっと普段から、大阪府下の小中学校の現場と関係性を深めて

ほしい。せっかくいい素養を持つ学生でも、最初に馴染めなかったために上手くいかないということを耳にするから。これから天王寺キャンパスを有効利用していく方針があると聞いて、それは大阪府下のいろんな学校とのアクセスを考えても、とても良いことだと思う。今後どう展開していくのか、期待したいね。

娘：私もこれから大学が変わっていくのを、ゼミの先生から聞いている。でも、大教大には、教師をめざすためだけの大学にはなっていない。教養学科があったり、教員養成課程でも企業就職をめざす学生がいたりする方がいいと思う。教師になりたいという強い思いをもった人だけが集まる大学だと、自分たちでぎゅっと固まって、考えが広がっていかない。教員養成課程の先輩や同期には、教養学科があるから大教大を選んだという人が結構多い。これからも多様な人がいる大学であり続けてほしい。



大教大★体育会 突撃インタビュー！

大教大体育会には、32団体が所属しています。
その中から3つの部活動をピックアップし、密着取材してきました！



小林 奈央
大阪教育大学広報室勤務。
教養学科スポーツ専攻
2015年度卒。
学生時代は水上競技部に所
属。2015年日本学生選手
権では、バタフライ2種目優
勝を果たした。現在は東京
五輪出場をめざして日々練
習に励んでいる。

陸上部

【部員数】
男子55名 女子21名



部長：和田 大貴くん

学校教育教員養成課程保健体育専攻3回生
大阪府立三国丘高等学校卒
専門種目：100m

小林：陸上部の雰囲気は？

和田：和気あいあいとしていますね。オンとオフの切り替えが上手で、オフの日には種目ごとに飲み会を開いたり、誰かの家に集まって誕生日会や鍋パーティーをすることもあります。

小林：陸上部のいいところは？

和田：向上心を持った真面目な部員が多く、陸上に真摯に向き合っています。特に、挨拶や礼儀など、人として当たり前のことを大切にしている、そういう人間性が競技力向上に繋がるという意識で取り組んでいます。また、個人競技だからこそ声掛けを大切に、種目の違う部員同士でも気づいたことを指摘するなど、互いに刺激しあっています。

小林：注目選手は？

和田：大学院保健体育専攻1回生、森本公人選手です。

小林：練習以外に取り組んでいることは？

和田：3年ほど前から、練習や試合で選手をサポートするために、トレーナーの研修会を開いています。トレーナー業に興味のある部員が集まって、マッサージやテーピングを勉強しています。

小林：後輩へのメッセージをお願いします。

和田：競技そのものはもちろん、礼儀やマネジメントなど、社会で役立つことも学べる部なので、ぜひ来てください。すぐに結果が出なくても、諦めずに向上心を持って続けていれば、きっと何かがつかめると思います。

注目選手
森本 公人くん



ソフトテニス部

【部員数】男子12名 女子3名



部長：久保 秋裕くん(左)

学校教育教員養成課程理科教育専攻3回生
兵庫県立津名高等学校卒
専門種目：ダブルス

小林：ソフトテニス部の雰囲気は？

久保：一人ひとり個性が強く、面白い人が多いので、笑いが絶えない楽しい部です。人数は少ないですが、団結力があり、ペアを組んでの練習のときにも先輩・後輩関係なく誰とでもすぐにチームになれます。

小林：年間の大会数は？

久保：関西学生ソフトテニスのリーグ戦を含め、大学チーム対抗大会や西日本インカレなど、年間13大会に出場しています。その中でも春と秋のリーグ戦に重点をおいて調整しています。昨シーズンは男子が3部に昇格できました。今年の目標は男子が2部昇格、女子は3部昇格です。

小林：注目選手は？

久保：学校教育教員養成課程保健体育専攻1回生、荒田翔伍選手です。専門はダブルスです。努力家

小林：部の今後の抱負は？

久保：主力だった先輩方が抜けて、新しいチーム体制を作っているところです。まずは春リーグで活躍して、自分たちも負けてないぞというところを先輩方に見せたいです。

小林：新入生に向けてメッセージを。

久保：僕たちは人数が少ない分、全員仲が良く、学年に関係なく一緒にご飯に行ったりします。もちろん部活では先輩が後輩をしっかり指導してくれま

小林：新入生に向けてメッセージを。

久保：僕たちは人数が少ない分、全員仲が良く、学年に関係なく一緒にご飯に行ったりします。もちろん部活では先輩が後輩をしっかり指導してくれま

注目選手
荒田 翔伍くん



スキー部

【部員数】
男子15名 女子9名



部長：熱田 雄輝くん(中央)

学校教育教員養成課程社会科教育専攻3回生
兵庫県立西宮高等学校卒
専門種目：アルペンスキー

小林：普段はどんな練習を？

熱田：大学ではスキーはできないのでインラインスケートでバランス感覚を鍛えたり、短いスキーのような板にタイヤがついたローラーという器具で坂道を登ったりといった練習をします。12月と2月には合宿をします。12月は、ノルディックスキーマンバーは北海道に、アルペンと基礎スキーは長野県にある大教大の宿泊施設「遠見山の家」に行きます。2月は全員で山の家に行きます。練習先のスキー場には他大学の学生も来るので、交流が盛んなのもスキー部の大きな特徴です。

小林：スキー部のスローガンは？

熱田：「Go ahead」です。個人の技術を高める、礼儀やマナーなどを身につけ人間として成長する、チームとしてさらに上をめざす、という3つの「前進」の意味を込めています。

小林：注目選手は？

熱田：教員養成課程社会科教育専攻2回生、細野雅人選手です。専門はノルディックスキーです。日頃から自主練習に取り組んでいて、面倒見がよく、皆の信頼も厚いです。今年2月には長野銀嶺国体に出場しました。

小林：後輩へのメッセージをお願いします。

熱田：僕の尊敬するスキー選手の「戦うときは戦う、楽しむときは楽しむ」という言葉を送りたいです。今しかできないことを全力でやって、楽しいことも全力で満喫してほしい。仲間と長期合宿するのも大学時代しかできないので、ぜひスキー部と一緒に楽しみたい。



注目選手
細野 雅人くん

大教生はキャンパスでどんな食生活を送っているのか？
生協にまつわる様々なイベントや活動、企画の運営を行っている
生協学生委員会のメンバーが、生協食堂をレポートします。

今日
何食べる？

大教生の食生活

Dinner

がっつり派も、ヘルシー派も 好きなのだ。

学校教育教員養成課程社会科教育専攻1回生
山本莉央さん
教養学科人間科学専攻2回生
寺田 有希さん

18時を過ぎる5限まで授業がある日は、お腹がペコペコ！
家まで我慢できない！そんな時は、第二食堂で友達と晩ごはんを食べて帰ります。夜の時間帯は、部活生、寮生、下宿生がたくさん。リーズナブルだから安心してたくさん食べられるのも学食の魅力です。ふと、隣に並んだ体格のいい人のトレーを覗くと、カレーうどん、さらに山盛りのおかずプレート。どうやったらこんなに食べれるんだろう…。



第二食堂

大学会館2階
営業時間：平日10:30～20:30
土 11:00～19:30 / 日・祝 11:00～14:30
食べたいメニューをほしい量だけ食べられる、グラムバイキング形式です。



Lunch

今日のおすすめは何か？

学校教育教員養成課程社会科教育専攻2回生
船元 大地さん

お昼時に一番賑わうのがDining Terra。メニューの人気1位は、ササミチーズカツ。2位は麻婆豆腐、3位は若鳥醤油揚げ。だけど、僕の個人的ベストメニューは、麻婆豆腐です。丼やカレー、うどんなどもあります。急いでいる時は、立席コーナーでささっと、時間があるときはソファ席でゆったり。その日の都合にあわせて利用できるところも気に入っています。



Dining TERRA

大学会館1階
営業時間：平日11:00～13:30 / 土日祝休業
ごはん・おかず・惣菜・麺類・カレー・丼など、お好みのメニューを自由に組み合わせることができるカフェテリア形式。学内で1番広い食堂です。



Breakfast

一日の計は朝にあり！

学校教育教員養成課程社会科教育専攻1回生 岡本夏海さん
学校教育教員養成課程数学教育専攻1回生 吉川 隼人さん
大学で朝ごはんを食べられるって知っていますか？390円でこのボリューム！朝ごはんを抜くと集中力や記憶力が低下するとか。朝ごはんを食べてから勉強しないと眠たいってことです！SUN CAFEには他にも、サンドイッチ、コーヒー、ソフトクリーム、パフェ、ケーキなどカフェメニューが充実。甘いものを食べながら、ほっと一息、友達とおしゃべりで盛り上がります。



SUN Cafe

大学会館3階
営業時間：平日8:00～16:45 / 土日祝休業
朝食は、和食と洋食から選べます。軽食・デザートが充実しているカフェレストランです。



Restaurant FORET

大学会館2階
営業時間：平日11:15～14:30 / 土日祝休業
(12:00～13:00は教職員優先)
席までメニューを運ぶフルサービスレストラン。
落ち着いた雰囲気でお食事ができます。



日替わりランチや
定食が人気。
オムライス、焼肉定食も
あります。

※営業時間・価格は2017年2月時点のものです。

テイクアウトショップ

大学会館3階
営業時間：平日11:45～13:00 / 土日祝 休業
あったかいお弁当のテイクアウト専門店です。



テイクアウト
弁当の人気ベスト3
1位 ロコモコ丼
2位 豚塩カルピ丼
3位 豚焼肉卵丼



Shop IRIS

大学会館2階
営業時間：平日8:30～19:00
土 9:00～15:00 / 日祝 休業
お弁当やお菓子などの食料品から、書籍、文具、生活用品など幅広く取り扱っています。



公式キャラクター
やまおとたまごどりの
グッズも売ってるよ。





大阪教育大学

附属学校園ウォッチ

Affiliated School | Osaka Kyoiku University



OSAKA KYOIKU UNIVERSITY'S

TOPICS

市民ランナー900人が柏原キャンパスを快走 01



「2017年柏原シティキャンパスマソン」(柏原市、柏原市教育委員会、大阪教育大学共催)が、本学柏原キャンパスで開催され、合計約900人の市民ランナーが標高差最大100mのコースを力強く駆け抜けました。

今年もゲストとして、お笑いコンビ「女と男」と「ランナイズ」が参加。さらに本学公式キャラクターの「やまお」と「たまごどり」、柏原市のキャラクター「かしびよん」も駆けつけランナーたちを応援しました。

「女と男」の二人は5kmの部に参加し、観客に笑顔を振りまきながら元氣よくゴール。10kmコースに参加した「ランナイズ」は、東洋大学陸上競技部出身のがんばれゆうすけさんが今年も驚異的な速さを見せつけ、相手の小宮ひろあきさんは、自作した「かしびよん」のバルーンアートのキャップを被って走り切りました。

5km一般男子の部で優勝した高校生の森大雅さんは、「アップダウンの激しいコースでしたが、去年よりタイムも上がってよかったです」と喜びを語りました。また、閉会式では、大阪マラソンの出場権をかけた抽選会も行われました。当選した和田直子さんはフルマソンは初挑戦ですが、このキャンパスマソンがすごく楽しかったので、大阪マソンも皆さんと楽しく走りたいです」と笑顔で話しました。

東日本大震災写真展「FILMの写した世界」を開催 02



本学学生約20人で構成する、写真をツールとして情報発信するサークル「FILM」が、東日本大震災に関する写真展「FILMが写した世界」を柏原キャンパス大学会館大ホールで開催し、7日間で約600人が訪れました。

これは本学が学生の自主的な活動を支援する「学生プロジェクト」採択企画で、3回目の開催となります。同サークルが岩手県陸前高田市、大槌町、遠野市を訪れて撮影した人物や風景、スナップなど、約30点が展示されました。震災追悼施設に飾られた千羽鶴と願いを込めた短冊、陸前高田市の7万本あった松原で唯一残った「奇跡の一本松」、直筆のサインが書かれた現地で出会った人のポートレートなどに、来場者たちは見入っていました。

訪れた学生らは「被災地が今でも復興があまり進んでいないことが改めてわかり、今の自分に何ができるか考え直すきっかけになった」と感想を寄せました。同サークル代表の衣笠初夏さん(特別支援教育教員養成課程3年)は、「これまで建物の中心だったのが、今回はより人に寄り添って写真を撮った。人の存在を感じ、行きたいと思うてもらいたかった」と写真展の趣旨を話し、「ここで沢山の人が亡くなった。大切な人を失った気持ちは消えない。震災から5年が経過したが、そのことを忘れてはいけない」と語りました。

谷口真由美氏を招き講演会を開催 03



テレビやラジオのコメントーターとしても活躍する大阪国際大学の谷口真由美准教授を招き、本学全学同窓会「天遊会」主催による講演会を柏原キャンパスで開催し、学生、教職員合わせて約100人が参加しました。

天遊会の島内武会長が開会挨拶を述べた後、谷口氏が「回り道もえんちやう? 何とかなるで〜!」と題して講演しました。谷口氏は「いい先生になれるかどうかの境目は、生徒の話にどれだけ共感できるか。生徒が相談したときに先生の対応が拒絶的だったら、生徒は二度と心を開いてくれない。回り道をして、色々な境遇の人と出会うことで、自身の人生経験に裏打ちされた教師になるための心構えを、時に失敗談も交えながらユーモアたっぷりに話しました。そのうえで学生には「先生になるなら、先生以外のアルバイトをしたほうがいい経験になる。ほかに学生の間に旅に出るなどいろいろな体験をして、視野を広げてほしい」とアドバイスしました。

学生からは、「いろんな人生経験を積むこと、また失敗を恐れず何事にもチャレンジしていくことが、自分を高めていくというのを改めて認識しました」などの感想が寄せられました。

障がいのある児童生徒の学習支援アプリを配信 04



●教員用教材作成アプリ「このころんです OMELET」
●児童生徒用学習アプリ「まなぶんです OMELET」
●教員用学習履歴管理アプリ「のころんです OMELET」

これらは、文部科学省の受託研究事業として、大阪府内の4特別支援学校と共に開発を進めました。昨年8月に配信した読み上げ教材作成アプリ「よめるんです」に続くシリーズです。

今回リリースしたアプリは、特別支援教育の現場を意識した機能を搭載し、児童生徒が学習に取り組みやすく、またPCなどに不慣れな教員でも比較的容易に教材が作成できるように設計されています。3アプリは相互に連携しており、同一の端末では教材ファイルが自動で同期され、教員用と児童生徒用など異なる端末同士では、EduCloud(アドベ社の無線通信規格やサーバを介して同期が可能です。

アプリおよびプロジェクトの詳細はウェブサイトをご覧ください。
<https://apphouse.osaka-kyoiku.ac.jp/omelet/>

附属天王寺中学校生が「税の作文」で内閣総理大臣賞



附属天王寺中学校3年生 松尾一輝さん

全国の中学生を対象に国税庁が実施する「税の作文」コンクールで、附属天王寺中学校3年生の松尾一輝さんが、全国63万通の応募の中から最高賞である内閣総理大臣賞を受賞しました。

作文は「地球を救うために」というタイトルで、大阪府と京都府が平成28年度から「森林環境税」を導入したことに着目しています。平成25年9月に日本を襲った大型の台風18号により、松尾さんの曾祖母の自宅が大きな被害を受けました。近年こうした大規模な台風や集中豪雨による災害が増加している中で導入された「森林環境税」には、土石流などが発生したときの対策費用としてだけでなく、間伐をはじめとする森林の管理保全に充てることで、森林の荒廃を防ぎ、災害の発生自体を抑える狙いがあります。松尾さんは「森林や環境のための税という考えには、驚きすら感じた」としながら、日本だけでなく世界の環境に関する税についても取り上げ、将来の安心な暮らしと豊かな自然を守るために、地球環境を支える税が大切な役割を担っているのだと訴えました。

夏休みの宿題として応募したという松尾さんは、国税庁のウェブページや本で「森林環境税」に興味を持ち、曾祖母から話を聞いたり、外国の税制度を調べたりして書き上げました。今回の受賞については、「自信はあったけど、総理大臣賞と聞いてとてもびっくりした」と笑顔を見せました。

幼い頃から日記をつけており、文章を書くことは好きだといいます。将来は「英語が好きなので、語学力を活かして、世界で活躍できる人になりたい」と目を輝かせました。

附属中学校生2人が高円宮杯英語弁論大会中央大会に出場

附属天王寺中学校3年の松岡咲夏さんと、附属平野中学校3年の橋山優花さんが、高円宮杯第68回全日本中学校英語弁論大会大阪府地区予選で上位5位に入り、東京都内で行われた中央大会に出場しました。

松岡さんは、3分間英語弁論による校内選抜を勝ち抜き、学校推薦で同予選に出場しました。「The Beginning of New Intelligence」というタイトルで、人工知能の可能性と人間との関わりについて、人工知能が感情をもっているという話題や、責任能力の有無などを論じました。毎朝NHKラジオの基礎英語を聞いて基礎力を身につけ、大会前には中学校の篠崎先生に、アクセントや声の大きさ、表情やジェスチャーなどのアドバイスをもらったといいます。剣道やピアノもやっているという松岡さんは「大好きな日本の伝統や文化を海外に発信していける職業に就きたい」と夢を語りました。

橋山さんは、小学生の時に通っていた英語塾の先輩が同大会に出場している姿に憧れてチャレンジしました。帰国子女でありながら中国語や英語がなかなか上達せずに悩んでいたこと、そして「外国語は自分の考えや思いを伝えるツールだ」と思うようになってから学ぶ姿勢が変わったことを発表しました。「ただ覚えたことを話すのではなく、自分の考えを相手にうまく伝えられているか、母にアドバイスをもらったり、ビデオで確認したりして大会に挑みました」と振り返りました。将来は「父のように外国の人たちと対等に仕事ができるようになりたい。そのために語学をもっと勉強したい」と声を弾ませました。

同大会を通じて友人になったという二人は、共通点も多く、夢に向かって一生懸命な姿はとても輝いていました。



附属天王寺中学校3年 松岡咲夏さん(左) / 附属平野中学校3年 橋山優花さん(右)



表紙作品:「わたしの庭 一絆」(部分)

教養学科芸術専攻美術・書道コース(美術)卒業制作作品

キャンバス 390.9×162.0cm 油彩

作者:米山沙里 2014年3月教養学科芸術専攻美術・書道コース(美術)卒業
2016年3月大学院芸術文化専攻修了

公式アプリケーション Android・iOS スマートフォン対応アプリ

大教大NAVI
大阪教育大学入試ナビゲーター

天遊の
動画も
見れる

取材時のオフショットや、紙面では伝えきれないイキイキとした学生・熱意のこもった教授などのナマの声を動画で配信!
〈詳しい使い方はホームページをご参照ください〉

App Store・Google Playから検索。



大教大



天遊 特別号 (vol.41)

2017年3月発行

企画・編集・発行／

国立大学法人大阪教育大学広報室

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

TEL.072-978-3344 FAX.072-978-3225

E-mail kouhou@bur.osaka-kyoiku.ac.jp